

1 自己評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人シルバーの森夕照苑		
事業所名	シルバーの森夕照苑		
所在地	大津市富士見台44番14号		
自己評価作成日	平成27年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・手作りで家庭料理を提供したり、時には職員と一緒に作ったり、四季を感じながら味わっていただいている。 ・ちょっとした利用者様の変化などにすぐに気付き、対応することができる。 ・利用者様が主体となった生活が送れている。 ・開設以来、夕食後毎晩、利用者様の安眠と健康状態の確認のため、本人の希望を確認の上、全員の足浴を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護計画について話し合うとき、ケアに対してケアがどのようになっているか、悩むような場合は、理念である原点に戻り、一人一人の利用者様について、今一度考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5月に移転してきたばかりで、地域との繋がりをこれから築き上げなければならない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の前を通行される方にグループホームについて知っていただけたらと、お天気の良い日には、利用者さんと散歩したり、外気浴を楽しんだりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑内で困りごとが発生した場合は、運営推進会議で話し合い、貴重な意見をいただいている。また、推進会議の内容は、議事録にまとめ、職員に回覧し、情報の共有化につとめている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアや運営について悩むことがあると、地域包括センターに相談に行ったり、事故が起こった場合には、大津市介護保険課に指導を仰いでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが当たり前であり、スタッフも拘束をしてはいけないと理解しているはずであるが、スタッフの対応を観ながら、その時々に応じた指導をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の安心・安全を優先して考えているが、どこまでが虐待なのか分からなくなることがある。時には言葉遣いなども難しい問題である。自分にされて「イヤ」と感じることは、止めるよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、苑内で成年後見制度を利用されている方はおられる。月1回のスタッフ会議において、その人らしい権利が守られるように話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一つ一つ理解していただけるように確認をし、同意もいただきながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、意見箱を事務所横に設置したり、家族来訪時に直接たずねるなど、家族からの意見は貴重であり、その意見をひもときサービス改善につなげている。苦情の申立については、公的機関としての窓口案内を重要事項説明時におこなっている。家族の方へ、毎月届けるお手紙に「面会にきてくださるのを待っております」と		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的に職員全員で会議をおこない、意見が出る都度改善に努力し、管理者に意見が言いやすい雰囲気作りをしている また、勤務体制は職員の希望を出来る限りかなえている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も積極的に介護現場に入り、職員と同様の仕事をおこない、職員に残業をさせないことや介護以外でも料理や薬の管理を任せ一人一人に責任を持たせるなど、職場の雰囲気作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの長所と補う部分を見極め、就労意欲を高めるよう努めている。 苑内の研修は、接遇やオムツの研修、防火訓練などをおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報の交換や施設の開放など積極的に他の施設の方々と良好な関係が作れるように努めている。 グループホーム協議会に加盟している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、よく会話することを心掛け、馴染みの関係を作ることを大切にしている。 フェイスシートの内容をよく理解し、利用者様と話をするとき、趣味や友人関係について少しずつ話すことで、安心感をもってもらえる関係をつくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方との信頼関係が築けるよう、施設内でのご本人の日常の様子や会話など詳しく伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からご本人への要望や意見等を聞き取り、早めの対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話やレクなど一緒に楽しめる時間を作る。 共有できることを探し出す。 社会に参加して生きていく喜びを感じてもらうことを目指している。 手伝ってもらったことに対し、必ず「ありがとう」と言葉をかけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取り合うことで、関わり合いを深め、良好な関係が築けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から本人の生活歴や交友関係、愛用の品などを教えてもらう。 友人の訪問を歓迎している。 苑の機関紙「夕照苑だより」をご家族や友人に送付することにより、本人の今の様子を知ってもらえるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有すること、同じ事にみんなが関わって行くこと、助け合うことをレクや共同作業等で深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族と定期的に連絡とり、ご本人の様子や情報をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ずつのケアプランを短期間ごとで決定し、本人の希望に出来るだけ沿うように目標を立て実行している。 職員は、一人一人の性格を理解し、どのような場合でも、その人に合わせられるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のケアプランを把握し、本人にとって最適な日常生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々との会話や共に行動していく中で、本人が求めている日常生活をさぐるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、ご本人、ご家族様、全職員参加の担当者会議を開き、ケアプランをケアマネージャーが作成し、モニタリングしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、3か月毎に会議を開いて、意見を出し合いながらプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者さんのニーズに基づき、マッサージ師を導入したり、体操教室などで、ボランティアの方々にご協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々にも運営推進会議に参加して頂き、現状を報告し、アドバイスをもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医師の診察を希望される場合は、月2回受診して頂き、必要に応じて地域の中核病院と連携している。また、掛かり付け医師を希望される場合は家族様と受診していただいている。協力医の受診は強制していない。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域の訪問看護ステーションと医療連携を行っているが、常は、看護師が不在のため、職員がバイタルチェックを行い、職員間の連絡を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の中核病院へ入院していただき、家族や意思、看護師と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携により、看取りもできるようになっている。しかし、現在、利用者さんの中に終末期の方はおられない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に防火訓練や救急救命の講習を受けることで、急変や事故発生に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年5月に移転してきたばかりで、近隣住民の協力を得るための話し合いは出来ていない。 今後の課題である。 防火訓練は、年2回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報を利用者さんや家族、来訪者等の目にふれない場所に厳重に保管している。また、職員には接遇や個人情報の保護に関する研修を実施している。利用者様の性格を把握し、言葉使いに配慮した対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を聴けるよう、コミュニケーションをとっている。 さりげなく歌を歌ったり、紙芝居をしたり、利用者さんがどのような反応をみせるか観察している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを大切にしている。 利用者様の希望に耳を傾けたり、職員からも提案をして、支援につなげられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。 季節にあった服装ができるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが当番制で食事の準備を行っている。 個々の能力に合った食事形態で提供している。利用者様を見守りしながら、スタッフも一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を個人記録に記入している。 適宜各自の湯飲みにお茶をついで、水分不足が生じないよう気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行っている。 義歯の方は、自分で出来る方のみ見守りながら行ってもらう。夜、全員の義歯をスタッフが洗浄する。 義歯でない方は、食後自分で歯磨きをして頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に排泄パターンが異なるので、日中も夜間も声かけをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適当な運動をして頂く。 食事は、バランスの良い献立を心掛け、十分な水分摂取を促す。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者様の健康状態に合わせている。 全員、隔日で入浴してもらえるようにしている。 希望される方は、必ず入浴して頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、足浴をおこなうことにより、安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	決められた服薬時間に、スタッフが見守って、服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いを積極的に取り入れている。 気分転換のため、外気浴や散歩の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今回移転先が交通量の多い道路に面しており、気軽に外出できない状況であるが、お天気の良い日には、玄関先で外気浴をしたり、近隣を散歩したりしている。 行事食は外食に出かている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人のお金は預かっていない。必要なものがあれば、ご家族様に購入を依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、自由に電話をして頂いている。ご家族からの手紙を大切に保管しておられる利用者様もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭があるので、ユニットが分かれていても、窓を通して全利用者さん同士の顔が見える。 施設内の床は全てフローリングで、バリアフリーになっており、清潔で歩行しやすい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを中心として各自の居室が配置されているため、いつでも好きなときに出入りができる。 ほとんどの方が、日中リビングで過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具やお仏壇を持ち込んでおられる利用者様がおられたり、居室にテレビを設置されている方もおられる。 利用者様がゆっくり過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、風呂、トイレ、リビングに手すりを取付、利用者様が、自由にかつ安全に歩けるよう配慮している。		